



いわきの子

〈学校教育目標〉「ふるさとに誇りをもち たくましく生き抜く 子どもの育成」

岩城小学校
学校便り
第42号
R7.1.20
文責：東海林

全国学力・学習状況調査の結果より

令和6年4月18日（木）に6年生が実施した「全国学力・学習状況調査」結果の概要についてお知らせします。（個人票についてはPTAで配付済み）

【教科について】

平均正答率	国語	算数
岩城小学校	71.0	69.0
秋田県	73.0	65.0
全国	67.7	63.4

- ・国語では、正答数が10問を超える割合が70%見られた。しかし一方で、正答数が8問以下の割合も多く、個人差が大きい。目的や意図に応じて考えを書く表す力の向上は見られるが、伝える力は十分とはいえない。また、漢字を書く2つの問題で無回答が20%を超えており、漢字の定着に課題が残った。

- ・算数では、平均正答率が県平均を上回った問題は、16問中10問あった。データの活用、数量関係はよくできていた。しかし、計算のきまりを用いて立式したり、除数が小数の場合の除法の計算を解いたりする問題では課題が残った。



- 自分の考えをまとめて書く場面では書き出しやキーワードを示すなどして、書くことへの抵抗感を減らすようにする。また、目的や条件、意図に応じた読み方や答え方を具体的に指導することで、伝える力を高めていく。
- 授業と家庭学習とを連動させ、計算力を高めることができるようにする。（学びの連続）
- 問題で「きかれていること」や「答え方」などを把握する力を高められるよう、一人一人が問題文からそれらを読み取る時間や機会の保障をする。

【質問紙について】

- ・55問中38問で肯定的な回答の割合が県平均を上回り、安心できる人間関係のもとで意欲をもって学習に取り組み、自己肯定感を高めている児童が多い。
- ・「学習に対する興味・関心や授業の理解度等」に関する設問については、国語・算数共に肯定的回答の割合が非常に高い。国語や算数を学ぶよさや楽しさを感じている児童が多いと考えられる。
- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」では、肯定的回答の割合は、19問中10問で県平均を上回った。19問中12問は肯定的回答の割合が85%を超えており、これまでの学習を通して、国語や算数、理科を学ぶよさを感じている。それに対し、普段1時間以上、学校授業時間以外で勉強する児童の割合が42.1%と低くなっている。（県は61%）また、土日など、学校が休みの日も1時間以上勉強する割合が10.5%と県の半分以下となっている。（県23.8%）



- 学級活動等で、家庭学習への取り組み方を紹介し合ったり、ノート展示会等でお互いに見合ったりするなどして、質・時間共によりよい家庭学習の取り組み方ができるようにしていく。
- 家庭学習の取り組み方には個人差がある。PTA学級懇談会等でも話題に取り上げ、家庭と連携しながら改善が図られるようにしていく。

裏面に由利本荘市の結果を掲載します

